資料２

岡山市外国人市民会議（第８期）
第１回会議（2026.1.21）発言まとめ

第４次岡山市多文化共生社会推進プラン体系		意見	委員
アコミュニケーション支援	①行政情報の多言語化と情報伝達ルートの確保	特定技能として働く中、どこに行けばどんな情報が得られるかを知る鍵は、岡山市と外国人を雇用している企業にある。情報の入口をどう作るかが重要。	すはるそ委員
		岡山市では、外国人労働相談コーナーや多言語テレビ通訳サービスなどのサービスがあるが、十分に知られていない。もっと普及させる取り組みが必要。	ぷすぱ委員
		問題解決のためには、みんなで前向きに取組むことが大切。特に留学生は若く経験も少ない。学校と行政が協力して生活・交通ルールを教える必要がある。 ・手続きに必要な書類の説明 ・病院へ行く手順や準備を教える ・自転車のルールなど、事故を減らす取組み	ばすねっと副委員長
	②生活者のための日本語学習支援	働いている人のためにオンラインで学べる日本語教室を。また、日本文化体験や交流の場も必要。	ぺん委員
	③日本文化・社会への理解促進	日本語と合わせて、日本人の考え方や文化的背景も教えるべき。	ちゃん委員
イ生活支援	④教育・子育て支援の充実	—	—
	⑤保健・福祉・医療(支援の充実)	病院に通訳がいない。オンラインによる医療通訳やボランティアによる通訳対応が必要。	ぺん委員
		精神的な病気に悩んでいる外国人も多い。継続して医師と話しながら診てもらう必要もあり、言葉の壁など安心して通えるにはどうサポートしたらいいかが課題。	かくれん委員長
	⑥居住・労働その他生活支援の充実	市が橋渡しとなり、同じ国から来た「先輩外国人」と一対一で話せ、サポートできる場があるといい。市が橋渡し役となって紹介する仕組みをつくっては。	ちぇ委員
		子どもへのいじめなど、どこに相談したらいいかわからない。市の外国人相談窓口の存在を広く周知するとともに、安心して利用できるように。	ちゃん委員

第４次岡山市多文化共生社会推進プラン体系		意見	委員
イ 生活支援	⑥ 居住・労働その他生活支援の充実	外国人労働者の現場では、多くの問題が発生。岡山市でも多言語対応のワンストップ相談窓口を設置し、土日にも利用できる仕組みを導入すべき。また、生活習慣の違いや医療受診、労働条件のトラブル等については、企業だけでなく市からも説明する必要がある。 長期定着の観点からは、外国人が地域の担い手として活躍できるよう、多文化共生の持続可能な仕組みを岡山市で構築すべき。	あんでぃ委員
ウ 災害対応	⑦ 防災対策の充実	―	―
	⑧ 災害時支援の充実	―	―
エ 多文化共生の地域づくり	⑨ 地域社会に対する意識啓発	日本人と外国人が交流できるイベントがあるといい。	ぺん委員
	⑩ 人権尊重の意識づくり	小学校で外国人の子どもへのいじめや無視される傾向等あり。もっと、文化や心理的なサポートができるよう、教員研修を行い、外国人の子どもが安心して学校で過ごせる環境づくりを。	かくれん委員長
	⑪ 市民が主体となって行う多文化共生や国際交流活動の支援	―	―
オ 多様性による地域の活性化	⑫ 外国人市民の地域社会への参加促進	特定技能として働く中、勉強だけは負担が大きいので、楽しいイベントなどを企画し、交流のきっかけに。	すはるそ委員
	⑬ 外国人市民の活躍による地域の活性化	―	―
カ 多文化共生の推進体制の整備	⑭ 庁内推進体制の整備	―	―
	⑮ 国、県、周辺市町や民間団体などとの連携	―	―